

## 潟上市総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年10月23日（月） 午後1時30分～午後2時35分
場 所	潟上市役所 4階 常任委員会室1
案件	(1) 令和6年度予算編成に係る協議及び調整について (2) その他
出席者	(会議構成員) 市 長 鈴木 雄大 教育委員会 工藤 素子 教育長 吉原 慎一 教育長職務代理者 佐藤 有加 委員 稲荷 一清 委員 佐藤 賢一 委員 (会議構成員以外の出席者) 総務部長 千葉 秀樹、教育部長 佐々木 渉、 総務課長 古仲 淳、教育部教育監 本間 秀徳、教育総務課長 齊藤 栄子、 文化スポーツ課長 石井 幸子、 教育部課長待遇兼市民センター館長兼市民センター天王館長兼市民センター昭和館長 兼市民センター飯田川館長兼図書館長 鈴木 学
欠席者	なし
記録者	総務部総務課行政情報班

### ＜次第及び会議結果概要＞

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 案 件

#### (1) 令和6年度予算編成に係る協議及び調整について

教育委員会側から市長に対し、令和6年度予算に係る協議事項として挙げられた次の事項について、市長と教育委員会とで現状や課題、今後の検討事項などを協議した。

- 1 「次代の人が育つ、生涯学習都市」の実現に向けての重点施策について
  - 1 特色ある潟上市教育の推進について
    - ① 潟上型教育の推進と「市の将来の作り手を育む」教育について
      - ・キャリア教育の成果を市の将来の作り手の育成につなぐ
      - ・特色あるふるさと教育の柱としての「石川理紀之助学」
    - ② 関係機関(県教育機関、県内大学等)との連携を生かした潟上型教育の推進
  - 2 一人一人の児童生徒や市民の主体的に生きる力を育むために
    - ① 子どもたち自らが企画する体験活動の推進
    - ② 子どもたちの豊かな活動を保障する部活動の地域移行の推進
    - ③ 多様性を理解し、誰にも優しいまちづくりの推進
    - ④ 市民(団体)が互いに学び合える場の創設
- 3 多様化、複雑化している教育現場の実状に対応した支援について
  - ① 小・中学校の多忙化解消策の見直し
  - ② 学校給食費等校納金滞納者への市立小・中学校で統一した対応(法的措置など)

③ 保護者・教員対応の相談体制の充実

2 その他

- 1 東湖小学校と天王小学校の統合事業の推進と今後の潟上市学校教育環境適正化の見通しについて
  - ・令和7年度からの統合校の円滑なスタートに向けた事業の推進
  - ・追分小学校舎整備など、今後10年を一つの目処とした市全体の学校教育環境適正化の計画的推進

2 ICT環境の整備について

- ・学校における通信環境の現状と今後の方向性

(2)その他

特になし

5 閉 会

<会議内容>

◆ あいさつ

**鈴木市長:**先に開催した1回目の総合教育会議では、潟上市立天王小学校と東湖小学校の統合校の校名(案)について、教育委員会の皆様と協議した。地域やPTAの代表者等から成る統合準備委員会における協議を経て、教育委員会からは、統合後の校名(案)として、「天王小学校」という名称を提案いただいた。基本的な考え方とされる、地域や市内外の住民にとって親しみやすく、広く受け入れやすいことや、校名から地理的イメージが湧きやすいことを踏まえると、もとより私も異論はなく、提案いただいた「天王小学校」という名称を了承したところである。統合校の校名は、今後市議会における条例改正の手続きを経て正式決定されることになるが、まずはここに至るまでの教育委員会の皆様方の御尽力に改めて敬意を表するとともに、校名(案)が市民にも周知されたことが新たな契機の一つとなり、両校の統合に向けた準備がより一層円滑に進むよう期待申し上げる。

本日は、来年度の予算を編成するに当たり、教育委員会の皆様と協議・調整を行わせていただきたく、開催した。教育委員会から提示していただいた協議テーマを中心に、皆様と率直に実りのある意見交換を行いたいと考えている。ぜひ忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

**工藤教育長:**本日は、総合教育会議を招集いただき、市長に感謝申し上げます。そして日頃から教育行政への助言、指導に感謝申し上げます。今月は、生涯学習、スポーツの大きな事業であるスポーツフェスティバル、文化祭へ、市長に足を運んでいただき、市民の皆様にも市長と一緒に参加できてうれしいという声をいただいております、重ねて感謝している。

小・中学校は、三連休明けから後期に入り、中学校では明日から4日間の日程で市内の各事業所でキャリア・スタート・ウィークが始まり、小学校では、今週末に学習発表会が開催されるなど、小・中学校ともに、実りと学びの充実の秋を迎えているところである。

前回の総合教育会議では、教育委員会の大きな命題である、潟上市立天王小学校、東湖小学校の統合に関して市長からの決定をいただき、その後の準備も進めているところであり、重ねて感謝している。

本日は、来年度の予算編成に向けて、教育委員会としては、来年、そしてその先のことを見据えながら、大綱を市の総合計画の教育部分と見て、市長部局と両輪で進めており、今後の教育行政の在り方について、来年のこと、そして、今後のことを見据えて、市長と協議いただいたことを教育委員会に持ち帰り、熟議を重ねてまいりたい。

◆ 潟上市総合教育会議設置要綱第4条第1項により、議長（市長）が進行  
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、会議は公開とする。

◆ 令和6年度予算編成に係る協議及び調整について

吉原教育長職務代理者：はじめに、協議案件資料に基づき、全体的な考え方について説明申し上げる。

教育委員会では9月の定例会の際に、今後の教育行政の課題についての考えを持ち寄って協議を行い、「協議テーマ一覧」としてまとめ、この一覧のベースとなっている各委員から提出された意見を参考資料としている。各委員から提出された協議テーマは2つの協議カテゴリーに分けており、1つ目は、「次代の人々が育つ、生涯学習都市」の実現に向けての重点施策についてであり、教育委員の考えを3つの観点で整理している。1つ目は、「特色ある潟上市教育の推進について」、2つ目は、「一人一人の児童生徒や市民の主体的に生きる力を育むために」、3つ目は、「複雑化、多様化した教育現場の実状に対応した支援について」である。私ども教育委員会としては、教育施策の立案、学校指導・事業実施などの推進に当たっては、鈴木市長の施政方針を受けつつ、潟上市教育大綱に基づいて実施してまいりたいと考えている。教育大綱は、令和3年10月29日開催の総合教育会議において、「潟上市総合計画 後期基本計画」における教育の部分をもって大綱に代えることと全会一致で決定されたものである。

本日は、教育大綱で目指す、「次代の人々が育つ、生涯学習都市」の実現のために、潟上の子どもたちをどのような子どもに育てていきたいかなど、鈴木市長の教育に対する考えを聞き、意見交換させていただきたい。本日頂いた市長の考えを教育委員会へ持ち帰り、次年度以降の施策について改めて協議をして、より良い方向性を探ってまいりたいと考えている。各項目については、後ほど各委員から説明する。

次に、2つ目の「その他」について、「現下の教育委員会重点事項である東湖小学校と天王小学校の統合についての進捗状況や今後の学校教育環境適正化の方向性について」と「喫緊の課題となっているICT環境の整備について」を話題としたい。

各項目について、各委員から説明する。

佐藤（賢）委員：「特色ある潟上市教育の推進について」説明する。潟上市としての特色ある教育の取組を進めることによって、他の市町村との明確な差別化ができれば、市の人口の増加につながり、結果として豊かな潟上市につながるのではないかと考えている。そこで、「特色ある潟上市教育の推進について」、2点説明したい。

はじめに、「潟上型教育の推進と「市の将来の作り手を育む」教育について」、潟上市では、秋田県で目指すふるさと教育、キャリア教育を重点として取組を進めているが、こうしたキャリア教育の成果を市の将来の作り手の育成につないでいくことが、今後の課題であると考えている。これまで行われてきた「ふるさと教育」「キャリア教育」を整理し、最終的に中・高・大学生による実践へとつなげ、潟上市の将来の作り手を育成する教育を考えていきたい。また、特色あるふるさと教育の柱としての「石川理紀之助学」を具体的に推進していく方策についても検討してまいりたい。

2点目は、「関係機関（県教育機関、県内大学等）との連携を生かした潟上型教育の推進」で、県内の大学等教育機関との連携を更に推進し、大学からの学生の派遣などを含めて、潟上型教育を推進する上で、多方面との連携協力を活用できないか、考えていきたい。

佐藤（有）委員：次に、「一人一人の児童生徒や市民の主体的に生きる力を育むために」について申し上げます。

1点目は、「子どもたち自らが企画する体験活動」を推進したいと考えている。子どもの体験活動に

おける格差を少しでも解消し、子どもたちが学びの場を活用しやすくなる工夫や、子どもたちの「自分たちの学びたいことを自分たちでも考えたいという欲求」、自主性を尊重して、子ども向けの学びの機会の企画段階に、子どもたちが関わるなどの取組を考えていきたいと思っている。

2点目は、「子どもたちの豊かな活動を保障する部活動の地域移行」を速やかに進めたいと考えている。今年度、学校や地域の関係者から成る検討委員会を開催し、検討を進めているが、県からの方向性が先月示されたことなどを受けて、今後は、子どもたちの活動の保障とともに、教職員の多忙化を解消し、心身ともに健康な状態で子どもたちの指導に当たることができる環境づくりも重要である。

3点目は、「多様性を理解し、誰しにも優しいまちづくり」を進めていきたいと考えている。ユニバーサルデザインの観点から、障がいの理解をはじめ、外国人にとっても住みやすく、また男女共同参画についても多様性理解という大きな枠組みで、尊重し合えるような人材育成も必要である。

4点目は、「市民（団体）が互いに学び合える場」を創っていけないかと考えている。それぞれの市民団体がもっている力を十分に発揮し、まちづくりに貢献できるよう、互いに学び合える場が必要ではないか。また、立場を越えて柔軟な意見を出し合えるような人材育成も必要である。

**稲荷委員：**次に、「多様化、複雑化した教育現場の実状に対応した支援について」、次の3点を検討していけたらと考えている。

1点目は、小・中学校の多忙化解消策を見直し、教職員が心身ともに健康な状態で子どもたちの指導に当たることができる環境づくりを考えていきたい。地域には、子どもたちのために特異な思いがある方がいるので、ボランティア等の一時的な支援を考えてまいりたい。

2点目は、1点目と関連があることだが、学校給食費等校納金を滞納している方への対応は、学校現場では大変負担となっており、法的措置なども含め、小・中学校で統一した対応ができないか、また、給食費公会計化は市の努力義務であり、こうしたことも併せて考えてみたい。

3点目は、トラブルの対応に苦慮している保護者や教員対応の相談体制を充実させるために、教育委員会からできる、例えば人的な支援について今後、検討したく存する。

**鈴木市長（議長）：**3名の委員から御意見を頂いた。市でも、夏からサマーレビューを行っており、教育委員会、市長部局も含めて、人材育成がひとつのテーマであることから、学びの場をどのようにしていくか、例えば、佐藤賢一委員から提案のあった「理紀之助学」について、今年は種苗交換会が本市で開催され、タイミングを合わせて石川翁の銅像の除幕式も行われる。石川翁は、まさに潟上、郷土の偉人であり、その活動は農業における指導だけではなく、人間教育、道徳に通じる考え方でもある。これについては、引き続き教育委員会で、石川翁の教え、こういったものを学ぶ機会を、全市で実践していただきたい。また、市の将来の作り手を育むという部分については、来年度、小・中学生では難しいと思われるが、高校生を対象に、実際に行政の現場に入っただき、他の自治体では「女子高生課」という名称で実施しているところもあるが、市の職員として、自分たちでまちづくりを考えていく事業を考えている。学校帰りのクラブ活動の一環として、市役所内等に課のスペースを設けて活動してもらうことで、行政やまちづくりに関心をもっただきような取組を、来年度当初予算編成に向けて検討している。高校生を対象として実施してみて、小・中学生に向けても実施できるようであれば対象を広げたいと考えている。行政運営の部活動化といえるかもしれないが、こうしたものを実施したい。

2点目の、高等教育機関、県内大学等との連携について、これはまさに、県議時代から私自身思っていたことである。市内には小・中学校があり、そして秋田西高等学校もある。隣接したところでは、県立大学、高等教育機関もある。これらの高等教育機関と連携をしながら、市政の中での地域課題であるとか、そういったことに取り組むことができないかと感じている。この点についても、教育委員会で具体的な案件の検討をしていただければ、必要な予算については市当局としても対応させていただきたい。他の私立大

学の事例として、今朝の新聞にも記事があったが、五城目町への災害支援において、私の母校でもある中央大学の学生がボランティア活動で参加している。本市においても、八郎まつりを始め、それぞれ催し等において人手不足の問題がある。行事等へ学生などの若い世代が関心をもって参加していただくことで、人手不足の解消が図られるほか、新しいアイデアや行事等が持続的になるような取組を考えるに当たり、市民だけでなく、外から見た視点も非常に参考になるのではないかと考えている。そうした部分については、事業化の見通しが立つものがあれば、予算化して実施したい。

また、佐藤有加委員から提案のあった件について、特に④「市民団体が学び合える場の創設について」は、大きなテーマである生涯学習の部分については、学びの場を作っていくことは必要だと思っている。既存の組織団体等だけではなく、御提案の内容は、垣根を越えた交流、例えば1+1が3や4になるような取組もあるだろうと思っている。その点については、知恵を頂きながら、検討してまいりたい。分館機能についても、組織として今見直しを図っているところである。潟上市として分館機能がなくなるのではないかという捉え方をしている地域もあるが、機能自体は当然残るものである。もっともっと、地元を知っていただくことと、第2次潟上市総合計画の目的でもある、「潟上市に住むことに誇りをもてる」まちづくりをするためには、行政側の考え方だけではなく、自分たちの住むまちの良さだとか、良くしていくためにはどういった取組が必要かという市民の皆さんの提言を、大いに取り入れていかなければならないと考える。この点については、お互いに知恵を出し合いながら、どういった取組ができるか検討してまいりたいと考えた次第である。①の部分については、先ほど話したように高校生を対象に、実践的なものに取り組みたいと思っているので、実施してみて、対象の拡大などを考えていきたい。部活動の地域移行については、直接的には、指導者や場所の確保や、集約化する際には交通の問題への対応もあろうかと思う。この点については、検討委員会でも踏まえながら対応していきたい。場合によっては、市内にとどまらず、競技種目によってはエリアでの連携も考えられる。今年も、羽城中学校と五城目中学校の合同チームで、野球で東北大会へ出場している。やはり何よりもそういった授業を受けるだけではなく、体を動かしたり、友達と協力したりといった経験が将来にわたって非常に重要なファクターになってくると思うので、しっかりと検討内容を踏まえながら、行政としても考えてまいりたい。③の多様性の理解については、ベースにあっては男女共同参画都市を宣言している。こうしたベースの部分で、以前にもお話ししたと思うが、多様性、ダイバーシティの中で、もう少し広く解釈していかなければいけないと思っている。先般報道で、政令市の仙台市がパートナー制度を導入する方針で、仙台市が実施すると政令市は全て対応することになる。潟上市も、既に実施している秋田市に隣接している地域で、かつ秋田市からの移住もあるため、市としても今後の対応を考えてまいりたい。

次に稲荷委員から3点の御質問について、多忙化解消については、デジタル化等も含めて進めてまいりたい。本市は、県の校務支援システム導入の対象になっている。こうした県や国からの有意義な財源や事業を踏まえながら、効果的なものであれば、予算投入を考えてまいりたい。また、給食費等の公会計化については、一方では今、他市町村では中学校までの給食費の無償化を行っている。私としては、本来は国が支援すべきものと考えているが、近隣市町村では、男鹿市がこの7月から給食費無償化を実施し、本市以外の男鹿南秋地域全ての市町村が給食費を無償化しているという状況である。実施している市町村では、非常に少子化が進んでいるという背景があり、事業実施に当たり対象となる人口が少なく、経費も抑えられるという実状があるようである。本市で給食費無償化を実施すると、確か1億8,000万程度を要する試算であったが、男鹿市では本市の半分の7,000万程度と聞いている。実施するためには財源の確保が必要となる。一定の財政規律を守りながら、それを超えるような財源が生み出された場合には、市民に何らかの形でしっかりと還元していくというのが、私の基本的な予算編成の方針であるので、市がもっともっと稼げば、そうしたこともできるかもしれないが、1億8,000万は(当初予算総額の)1パ

一セントに当たり、あまり現実的でない。市議会でも話したが、県予算であれば、高等教育機関と大学2つの規模の予算を配分するということになる。本市においては、学校給食費については議論を深めながら考えていかなければならない。次に、保護者、教員、その相談体制については、保護者から学校に対する相談と、教員の仕事の悩みへの対応ということか。

**稲荷委員**：その部分も含め、トラブルに教員が対応した際に、教員も学校も非常に困るというような相談を受け入れる体制について、多岐にわたる可能性はある。

**鈴木市長（議長）**：法的な部分については、弁護士等へ相談する体制というのは現在もあると思われるが、この点については教育委員会、教育委員と相談しながら、私自身も勉強させていただきたい。

今、3名の方々から出された意見は、まさにこれからの潟上市の、まさにそのテーマにある、「次の世代が育つ生涯学習都市」を形成していくためには非常に重要な起点であると思う。以上で、委員からのテーマへの意見としたい。

各委員から、自分が発表したテーマ以外の意見等があればお聞かせいただきたい。

**吉原教育長職務代理者**：今の市長の話をついて、非常に心強くありがたく存ずる。人材育成ということが本当に具体的に動き出すという印象である。特に、他の自治体では「女子高生課」という形式で行っているということだが、高校生の市政運営の部活動化のような、非常に斬新な発想である。また、子どもたちにとっては本当に生きた経験で、まちづくりに具体的に自分が参入できるという体験をもてる場として、非常に貴重な機会であると思う。高校生で実施し、成果を検証して、是非潟上では中学校辺りまでに拡大していただきたい。教育は、国民総掛かり、市民総掛かりで向かわなければいけないという、本当に大きな事業で、それについても市長部局が先鞭をつけていただき感謝申し上げる。

**鈴木市長（議長）**：この件についても、組織の一つの課という位置付けで、私としては予算を持たせて、自分たちの予算を考えて、その予算を執行してもらいたい。まさに行政の一員として、実践して、その自分たちで考えたものが成果として出ることで、地域に対する思いが育ったり、また、将来いろんな仕事をしたときに役に立つのではないかという思いがある。これは今、企画政策課で検討させており、実践してみたいと考えている。これまでは、市と子どもたちとの直接のつながりというものが無かったが、例えばディズニーランドをもってきてほしいといった非現実的なことではなくて、自分たちが日頃暮らす中での困りごとなどを解消していくようなものが、子どもたちから出てきてくれないかと思っている。行政的には、本来はテーマや内容をしっかりして予算計上すべきであろうが、私としては、思い切って、まるっきり高校生たちの自由な発想で実践させることができれば面白いと思っている。これがうまくいけば、小学生ではまだ難しいと思うが、中学生も対象として独自に、例えば単純に商売をやってもらうなどの事業を検討したい。今年、高橋優氏のフェスを元木山で開催した際、羽城中学校の生徒が、ボランティア活動でごみの回収等の活動を一生懸命しており、本当に感心したこととして、しっかり声かけしながらごみの分別をしていて、初日が終わった後の会場にはごみ一つ落ちてなかったことがある。そうした状況を、来場した方々が非常に評価してくれて、私どもとしても、中学生も大人以上にしっかりやることができると思うとともに、あのようなフェスの場面で、将来的に子どもたちが、自分たちのふるさとであれだけの規模のイベントができると誇りをもってけると嬉しく思う。SNS上ではあったが、非常に中学生を褒める方々がいたので、教育委員会を通じて、校長先生には、私からもお礼をさせていただいたところである。非常に可能性ある子どもたちが、たくさん潟上にもいるということ、実際に目の当たりにできた。その子どもたちが、高校生になってもしっかりまちづくりを考え、将来就職でいったん市を離れるのも経験だが、得た経験やキャリアをまた、いつかはふるさとに活かしてもらえるような、そういったキャリア教育も大事だと思っている。何かしらの形で行政に市民全員が関わるようなまちを作ってまいりたい。実際に事業を実践する際には、委員の皆様にも御理解御協力いただきたい。

**稲荷委員：**県、関係機関との連携も含めて、一言お話ししたい。市では、高校生がまちづくりを考える事業を、来年辺りから実施する方向ということで、非常にありがたいことである。小・中学校でふるさと教育を実施し、地域の良さ、潟上の良さを知って、中学校でキャリア教育として職場体験をしながら、仕事の良さなどを聞く機会を設けているが、高校になるとどうなのか、大学になるとどうなのかということ、教育委員会でも具体的にはイメージできていなかったところである。今後、まちづくりを高校生に考えさせるという体験の場を設けていただけるということであれば、小・中学校で学んだことが高校にもつながっていくため、非常にいい取組であり、是非企画していただきたい。大学と連携した潟上の教育についても、潟上市の子どもを育てるという観点もあるが、潟上市について、まちづくりについて、大学生と、小学生・中学生、小学生が難しいようであれば中学生・高校生と考えるといったことは非常にいい機会であるため、是非実現していただきたい。

**鈴木市長（議長）：**高校生に着目した背景としては、自治体の採用試験を受験される方が、どんどん減ってきているということもある。採用する側としては各年齢階層がバランスよくいることが望ましいが、今年も高校生も大分少ない状況である。これは本市の地域性もあり、県庁と併願をしている方が両方合格すると、他の市町村、例えば県庁から離れた県北や県南の市町村では、県ではなく市町村への就職を選ぶようだが、本市は県庁への通勤圏内であるためか、面接試験のときには市役所へ就職したいと話していても、ほぼ100パーセント、県庁への就職を選ぶ傾向がある。現在、私を先頭に人材育成に取り組んでおり、いい人材を獲得するためにも、若い時代から行政に関心をもってもらいたいという背景もあり、来年度から高校生を対象とした事業を実践していきたいと考えている。大学等の高等教育機関との連携については、吉原委員は大学への勤務経験もあることから、是非ともアイデアを教育部の方にお教えいただきたく、可能であれば委員のコネクションを利用しながら、形にしていきたい。

そのほか、意見等無ければ次に移りたい。次の「2 その他」の説明をお願いする。

**工藤教育長：**それでは、その他の1つ目について、報告を兼ねて申し上げる。1回目の総合教育会議で市長から、東湖小学校・天王小学校の統合に関し、校名について御協議、そして御決断いただいたところである。その後、10月に第4回の統合準備委員会を開催し、本日の午前中の教育委員会定例会においてその意見聴取の報告を受け、校名に続き、校歌や校章に関する基本方針案を承認するところまで進捗している。校歌については、天王小学校の現在の校歌を採用し、東湖小学校の校歌は、第2校歌や児童会の歌などとして、歌い継いでまいりたいということ。校章についても、天王小学校の現在の校章を使用しながら、東湖小学校の二本の矢羽根にはしっかりと意味が込められていたため、それも尊重して、天王小学校の三本の矢羽根にも、例えば知徳体であるとか、そうした教育の願いを込めるということ。意見聴取を踏まえて、本日の教育委員会で協議し、基本的な方向性を確認したところである。今後は、東湖小学校は来年度で閉校となることから、閉校に向け、学校を事務局として統合準備委員会を開催し、記念事業式典、記念誌の発行などがスムーズに進むように、教育委員会として支援してまいりたい。令和7年度の開校に向けて、様々な解決していくべき課題、予算を伴うものも生じてくると存ずるが、今後、市長に御指導いただきながら、進めてまいりたい。また、2点目「市全体の学校教育環境適正化の計画的推進」について、今後10年先を見越した教育環境適正化の中の一番大きな課題として今申し上げたような東湖小学校と天王小学校の統合の問題があり、昨年の市民説明会でも説明したところであるが、今後10年が経たないうちに、天王中学校も羽城中学校も1校では中学校が成り立たないという問題があり、これはホームページ等でも周知しているところである。その一方で、追分小学校の校舎は児童数の増加により手狭になっており、法的に必要な教室数を今後満たすことができなくなるという現実があることから、私たちは今後、令和7年度に新しい天王小学校が開校した後に、そうした課題が待ち構えていることから、時期を失しないように、必要な委員会を立ち上げるなど対応してまいる。そうしたことを御報告し、今後も、計画的に市長に御相

談をしながら進めてまいりたいので御指導願いたい。

**稲荷委員**：「その他」の2つ目「ICTの環境整備について」申し上げる。小中学生一人一人へのタブレット配備については、本当に、感謝しているところである。これに関連して、ICTを使う上での、Wi-Fi等学校における通信環境の状況について申し上げる。学校では、デジタル教科書や、先ほど話題となった校務支援システムの導入が進められており、学校における無線LAN環境を始め、通信ネットワークの高速・大容量化が必要と考えている。今年、教育委員の学校訪問の際、ほとんどのクラスで、コンピュータ・タブレットを使用した学校があり、その時間の終盤にいたクラスでは、おそらく通信環境の影響で、なかなかソフトが開かない、ということがあった。その原因が容量オーバーかどうかについては定かではないが、様々なICT機器の使用により、どうしてもそのパイプが容量オーバーという状況になると考えられる。通信環境について調査し、必要によっては、ネットワークの基盤整備が求められると存ずる。

**鈴木市長（議長）**：東湖小学校の件については、今後のスケジュール・日程に沿って、粛々と進めていただきたい。2点目の「市全体の学校教育環境適正化の計画的推進について」は、単純な統合等の問題もあるが、実際の数字上で見ると、追分小学校の児童の半分、あるいは100人でも飯田川小学校と東湖小学校に割り振りできれば、小学校が存続できるというジレンマ、偏りがある。学校は地域に根づいているものであろうが、それぞれの小学校にもっと特色があって、その特色に合わせて、高校のように選択式で学校に通わせるなど、私としては、可能であれば廃校ではなく存続できる方法がないか考えるところである。本市は、他の市町村と異なり、一部の地域では子どもの数が増えており、全体でも維持している状態である。これは、追分地区が特殊な状況であるものの、今年の人動態の状況を見ても、これまで過去3箇年で、社会増が続いていて、移住が進んでいる状況である。本年度4月からは、子どもの数に加えて出生数が、前年度の前期と比べると、20人ぐらい増加している。おそらく追分地区の子どもが多いと思われ、この子どもたちが小学校・中学校へ進学することを考えると、先ほど追分小学校の校舎整備、増築の話もあったが、今現状のぎりぎりところ児童数に合わせると良いのか、将来的に見ると、もう少し増え見込みがあることから、より規模が大きいものが必要なのかといったことが予算編成時の肝になると存ずる。こうした将来的な明るい兆しが見えている一方で、全体的な人口減少によって子どもの数は減少する可能性もある。今後の10年で先に計画していたものを先延ばししていいかについても検討しなければならない。いずれにしろ、現状の数字では、中学校ですら単体でもたない状況が見えていることから、やはり人口動態、そしてまた市の財政状況等も含めて、しかるべきタイミングで決定していかなければならないと考えているため、そのベースになる部分については、引き続き教育委員会で検討していただきたい。

2つ目の「ICT環境の整備」については、タブレット整備時には、通信環境の整備を行っていなかったものか。

**佐々木教育部長**：インターネット通信についても工事を行っている。

**鈴木市長（議長）**：工事をしたが、場所によって通信状況が悪いということか。

**稲荷委員**：おそらく機器の交換をするなどして、校内での環境はいくらかは良くなったと思う。学校から外に出るとか、学校から出たときの容量がどうなのか等を調査しなければならないのではないかとということを含めて、お話ししたところである。

**鈴木市長（議長）**：校舎内での使用には十分で、帰宅後も、家のWi-Fi環境で十分と思われる。

**稲荷委員**：学校から出たときに、容量の問題があるのではないかと考えている。

**鈴木市長（議長）**：この点については、現場の状況・意見を聞き、実態を把握するためにも、まずは状況を調べさせていただきたい。

人口については、一喜一憂はできないが、単年度ベースでは、東北圏内でも好調と思われる。今年状況については、上期で人数が10人しか減っていない状況で、去年は通年で290人減少していたことを



鑑みると、今のトレンドが年度末まで続くと、3月に転出が多いため、最終的には減になると思われるが、場合によっては人口増加に逆転しかねない状況である。出生数も増加傾向で、年間150人くらいしか生まれていない中で、半年で100人近く出生している。月に10人ずつ出生届が出ているペースで、さらに子どもの数が増えると思込まれる。こうした状況では、第一義的には保育の問題、待機児童といった問題もある。他の地域ではまだ問題ないであろうが、追分地区については、出生数の増を踏まえ、早期に考えていかなければならない状況である。これは、おそらく県内25市町村の中でも本市だけで、子育て支援でしっかりニーズに応えた支援をしていく態勢を取り、子育て世代に選ばれる市になっていくことが重要と考えている。こうした事業のベースとなる税収についても増加傾向にあり、当初ベースで見込んだ額よりも億を超えて増収になる見込みである。本市にとっていい風が吹いている状況もあることから、本日御意見いただいたような新しい取組について、実現可能性のあるものについては積極的に市としても取り組んでまいりたい。是非とも委員の皆様には、現場での経験等を含め引き続き御意見賜りたい。

**佐藤有加委員：**私から、「多様性を理解し、誰にも優しいまちづくりの推進」について、これは、本市でALTを勤めた先生の中には、任用終了後に潟上市に戻ってきたり、暇なときに遊びに来たりする先生がいる。他市町村でも同様であると思っていたが、意外とそうではないということから、本市が、他の国から来た彼らにとって住みやすく感じられたと考えられる。そしてさらに、友達にただ会いたいであるとか、どこかに行きたいといったことではなく、教育委員会や市職員など、在職時にお世話になった方々に会うために来ているとのことで、市職員が本当に優秀で、ALTに優しくしてくれていたということを感じており、そのいいところを、もっとますます伸ばしていきたいと思っている。外国から来た人たちは、ALT以外にも多くいることから、そうした人にとって住みよいまちになってほしいと考えている。

**鈴木市長（議長）：**委員の意見のとおり、本市は意外と住みよいまちであると思っている。私も、県庁に勤務したり秋田市に住んでいたりと、男鹿南秋地域、特に潟上市は、乱暴な気の荒い人が多いという印象をもたれがちである。今回の高橋優氏のフェスに来場した、市外や県外から来た人たちからは、潟上市の人は、非常に優しく親切だという印象をもたれていたようである。食べ物についても、海の幸から湖の幸、果物がある。このフェスは過去5回開催しており、本市で6回目で開催であったが、過去に開催したどの会場と比べても遜色なく、フェス全体を考えれば一番良かったのではないかといった評価も、実際に会場で頂いたところである。私自身も、とかく「まあ性根の悪い人が多いからな」と言いがちだが、潟上市の人は優しい人が多いと感じており、これは市役所内の仕事においても、職員も非常に優しいと思っている。時としては、厳しくしてもいいのではないかと、私が個人的に厳しいのかなと思ってしまうこともあるほどで、実際に優しい人が多いのではないかと。子どもの頃から、いい意味でポジティブに、「自分は潟上出身なんです、潟上はこういうまちなんです」と言えるような子どもたちが育つようなまちを、大人がしっかり作ることで、みんなが誇りを持って幸せを実感できるまちになると考えている。これは予算に関係するため、実現できるものとできないものがあるが、やはり市民それぞれが、いわば主人公としてまちづくりをし、そして行政側はそれぞれの世代に対してもしっかりと支援するようなまちができればいいのではないかと考えている。私のイメージでは、行政が引っ張るのではなく、プレイヤーである市民が、自分たちでまちづくりをして、そのためのサポートを行政がしっかりする。産業分野と教育分野では違うかもしれないが、都会で稼いでいる企業は、行政をあてにしておらず自分たちで稼いでいくというスタイルである。その中で効率や精度について障害があれば、そのときに、行政等に相談して対応している。あまり直接的に行政に不満を申し立てるといったことはしないようである。

活動している人たちから、様々な形で要望や意見をいただけることは、私としても大変ありがたいことである。先日、地域の夏祭りに行った際、私の性格的な問題かもしれないが、市民の方から直接に要望・ニーズを聞くことができた。いつもは又聞きであるから、現場がどうなっているのか分からないというこ

ともあり、非常に参考になった次第である。そういった意味で、我々行政サイドも、垣根をある程度は無くして、それぞれ基本的なルールの中で、まちづくりに関して話し合いながら行政を進めてまいりたい。こうした取組が子どもたちにも伝わっていくことで、いいまちになるのではないかと考えている。経費をかけたイベントがあるというPRも大事だが、3万2,000人の市民がそれぞれ自慢話ができれば、それが一番のPRになるのではないか。そういった中ではふるさと教育・キャリア教育であるとか、かつ、グローバルな視点では、いずれ都会に出て、活躍する場面があったときに、田舎でこもっていて都会に行ってみてびっくりして何も物が言えない子どもよりは、しっかりとそういった大都会でも活躍できるようになるには、若い時代から、こういう大人の仕事に関わらせるのが大事であると考えている。可能な限り、実践すべきものは予算化してまいりたい。

(終了：午後2時35分)